３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

富士北流域（桂川相模川）サプライチェーン視察記

人間は元々、自然との関りで生かされてきました。私が小学生時代は福岡県糸島郡深江と言う波が軒先を洗う様な海岸沿い、中学生時代は福岡市のドンづまり東油山（僧・栄西が宋から菜種油を持ち帰ったと言われる）山中で育ちました。森・里・川・海、全て生活に関わっていて自然が何らかの食料を準備してくれたものでした。ところが第2次世界大戦後は、朝鮮戦争・ベトナム戦争の軍需製品の補給基地となった為に第二次産業や第三次産業の技術開発により人為的な発展が進み、今では有数の経済大国になっています。

　そのために、生きる基礎である第一次産業が還り見られなくなりました。私はそれに気付いたので1998年（平成10年）5月に、WWF（世界

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

自然保護委員会）日本委員会の自然保護室に相談の上、早速、地の利を得た相模湖周辺の森の整備に入りました。15年を経過した2012年の第12期通常総会で、若者の森つくり、（森林資源の）サプライチェーン構築が採択されました。若者の森づくりについては活動の蓄積の上、若者の頑張りもあり、2016年（平成28年）には環境大臣賞を受けるに至りました。サプライチェーンの取組みはなかなか手掛かりを得ぬまま推移していましたが、東大院の酒井秀夫先生と蔵治光一郎先生のお勧めで第一次産業の安定化の成功例となっている中部圏の矢作川流（愛知県）の源流・中流・下流を見て、進むべき方向への感触を得ました。学んでいて気が付いたところから投稿していきます。現在、盛んに林業の六次化が言われていますが、国の大本は「治山治水」ではないでしょうか。矢作川流域ではそれが上手く行っているようです。当面、国交省中部圏整備局（矢作川流域）の取り組みを調べ神奈川県＋山梨郡内（桂川相模川流域）での取り組みと比較考察・連載してみます。いろんな資料も参考にしていますが、私も源流から順に現場作業に参加しながら検証していきます。皆様のご提案、ご意見を下さるよう切望致します。
石村　黄仁（本会、顧問）

【定例活動報告】知足の森

まさに探検

道なき道を地図とGPSを頼りに境界線を探します

知足の森では昨年末に長福寺住職さんから相談を受けていた小原のほうにあるという所有林の調査を行いました。お寺の背後の尾根を回るように所有林をお持ちであることはほぼ調査、確定できてきました。そのなかで、本会が小原本陣の森として活動する尾根周りの一部にも所有していることがわかり調査することになりました。参加したのは中高生９名と私が学生時代に損保ジャパン環境財団で活動していたときにお世話になっていた粟田さんと私。我々が持っているのは所有林の地番枝番、制度がかなり怪しい区分図、ハンディGPSなどの測量具。今回強力なツールになったのは、以前この当たりを別件で歩いていた川田理事長のルートデータ。まずこのルートデータで森の入り口、取りかかり口がわかりました。しかし、ルートが被っていたのは入り口の入り口だけでした。それでもそのルートデータが区分図の境界線沿いをかなり正確に歩いているので、長福寺所有林の入り口の角はすぐにわかりました。同時にコンクリート製の大きな杭も発見し、所有者ごとの境界線であることはすぐに判明しました。しかし、そこからが大変。所有者である住職さんですらほとんど把握していない、つまり手入れがされているはずがないわけですから、なかなかの荒れよう。スギヒノキ中心の典型的な森ではありますが、木の密度はそれほどでもなかったようです。そのかわり、雑木や竹まで一部侵入しているので、この先10m進んでみようと、メジャーで測りながら、木を切りながら、予定している30m弱進むのに１時間以上かかりました。境界線の一部が高速道路と接しているためそれ沿いに歩き、ここまで行けば反対側の所有者との境界線というところで、森が開けてきました。我々が頼りにしているGPSは準天頂衛星「みちびき」からのデータを受信できるのですがこの日のデイタイ

ムは天頂にいないときで精度がイマイチ。従来の古いGPS２台も予備で投入し、確認しながらでした。ところが、この森が開けたところで、電波が一気に強くなり、現在位置、地図上での予定位置、高速道路で決めていた目標物が一気に一致し、同時に少しせり出した尾根という地形的にも全てが一致しました。ここで尾根沿いに境界線の最後のポイントを探しに斜面を登り始め、無事に目的地に。これで所有林の南側、西側の境界線が判明しました。あとは東側。こちらはかなり複雑でまだまだ調査が必要ですので、これからもタイミングを見て調査をしていきます。次回は９月を予定しています。　　宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

＜森林整備班＞今日は大変暑い日だった。風が無く湿度が高いせいもあり「うだるような暑さ」とはこのことだと実感させるものであった。沢山の新人が参加され（２０名以上）全体の半分が新人という構成で始まる。梅雨明けまでの雨のせいで雑草が随分伸びて目立つようになってきたので、基地の周りから草刈を森林整備班の仕事として、午前中で基地の周りと舗装道路周辺の雑草の処理を行った。今日は、刈払機が二台入荷されたことで、お花畑班へ。森林整備班は三角鎌の方が使いやすく作業もはかどるので、墓地の入り口当たりまで作業を行った

昼時間の合間を使って、元ForestNovaで活躍された斎藤夫妻の「森の結婚式」を挙行しました。森林整備班は音楽担当でギターによる演奏を仰せつかった。「二人の世界」で入場「テントウムシのサンバ」を合唱し「乾杯」で締めくくりました。メインイベントは二人でチェンソーで丸太に入刀シーンです。順調に進み斎藤夫妻の御礼の挨拶「山でのカップルが誕生するのを期待します。」という言葉が印象的であった。

午後の部では、物置き小屋の野路板張りを手伝った。台風シーズンになるので、風雨による破損や腐敗を無くすため早々に仕上げる必要がある。本日は、誰一人熱中症や虫刺されが出なかったことが幸いでした。みなさーん「おめでとうございます」（報告：小林照夫）

＜生命の森宣言・東京＞若手の初参加者も5人あり総勢12名で作業を行いました。午前中は嵐山を登り、山頂にある神社を参拝し、相模湖を眺望しました。都会の生活では味わえない森林浴をしてから、午後は下草刈りと間伐を行いました。初めて木を切り倒した参加者からは鋸の使い方や角度に試行錯誤しながらも、倒れる時の迫力に感嘆していました。森の中で、生命の繋がりをこれからも多くの参加者と感じでいけるよう活動してまいります。（報告：池田力紀）

猛暑、猛暑の森

都市部よりは楽？というわけにもいかずともみなさん元気に活動しています

＜お花畑班＞参加者：石原さん、薄井さん、岡田さん、瀧澤さん、丸茂、天気快晴、午前10時作業開始。午前中は昨年12月に亡くなられた山主の鈴木史比古氏が、お父様の重彦氏の代から緑のダム北相模に活動の場を提供し、かつ毎年この時期に活動基地、その周辺、花畑など広範囲の草刈りを自費で整備してくれていた。その好意に甘えていた反省も込め、刈払い機2台を購入したので、なんとか花畑班でその範囲の草刈りをすることを決意し、2人で対応できるか不安だがとにかく石原さん、丸茂で開始した。２班に分かれ、瀧澤さん、岡田さん、薄井さん3人は、カマでの草取り、梅の木の整枝、植木の刈込などを行った。石原さんと丸茂は購入した刈払い機の試運転も兼ね、石原さんは花畑、私は基地と道路沿い、アプローチ道路の草刈りを開始。

昼食後にサプライズがあった。森で結ばれた斎藤駿一さん、理沙さん（旧姓神宮さん）の結婚報告＆祝う会が行われた。新郎の斎藤駿一さん、新婦の理沙さんは学生時代から当会の「フォレスト・ノバ」で活躍し、新郎の斉藤さんは（株）木林士で林業に従事。新婦の理沙さんは（株）相模原木材センターに勤務。将来地元の森林産業を担う私たちのホープである。小林照夫さんと川田晃さんのギター演奏と進行で全員が合唱し、楽しくしかも素朴にお祝いした。因みにケーキ入刀はケーキならぬ丸太。森に響き渡るチェンソーでの入刀式になった。初回の森の結婚報告会は宮村さんご夫婦で、斉藤さん・理沙さんは2組目。次のカップルは誰か楽しみだ。午後も引き続き午前中と同じ作業をしたが、結局石原さんも私も新しい機械に不慣れの事もあり、予定の範囲までは終了できなかった。（報告：丸茂喬）

＜木工班＞前回の間伐材置場の屋根工事では、垂木の取付が一応終わり、野地板を少し取付けた。今月は野地板の取付を手分けして進める予定であったが、垂木の位置の不良の手直しを先に行った。野地板の取付は、５０％程度まで進んだが、まだ２回ばかりは掛りそうである。最終仕上げをどうするかを皆で検討中である。（報告：川田浩）

＜地球環境部＞今回は森の結婚式という、うれしはずかしなつかしイベントがありましたが、地球環境部も間伐作業を進めています。今回も私が勤務する東京学芸大学附属小金井中学校の生徒も含め２９人が４チームで７本間伐。さらに今回は小金井中で植物調査に取り組む生徒とで望星の森のチェック。指導は同大環境教育研究センターの小柳先生。望星の森も含め植生は豊かで興味深いものも多いとのことで、調査結果がどのようなものになるか楽しみです。一方、トチノキの方ですが、間伐を進めている区画と枝打ちを進めている区画で大きな変化がでてきました。枝打ちのみの区画は本数が多いため、斜面は真っ暗。当然地面はむき出し。それだけ木が枝を伸ばしているということ。本数を減らしているところは全般的に森が明るく様々な下草が生えていて、森らしい森になってきました。きちんとデータが出そろったところで同様に間伐予定、この施業を望星の森の基本としたいと考えています。望星の森もいよいよ終盤です。（報告：宮村連理）

【若者の森づくり】ForesTo Class

7月第１日曜日の活動日においてForesTo Classでは、前回間伐した直径70センチ程の立ち枯れした大木の搬出準備を行いました。

4メートルほどの長さに揃え、搬出しやすいように道路近くまで寄せた状態で枕木を敷き林内乾燥させています。人力とチルホール頼りの作業で無事に完了させる事が出来ましたが、途中ワイヤーの長さ不足やチルホールへの負荷軽減の為に動滑車を何度も付け替えるなどして時間を取られてしまいました。今後同じような作業をする可能性を考えると長

若者の森づくり

ForestClassの大径木の活用方法の模索が続いています

さ・太さのあるワイヤーや750kgまで耐加重のあるチルホールの必要性を感じるところです。材については地主の永井さんのところで使って頂けるような机や卓袱台などに加工したいと思っています。丸太のまま搬出するか、林内でチェーンソーを使い大まかに加工してから出すかなど搬出方法はまだ詰め切れておりませんが、次回の活動日には搬出を済ませたいと思います。

ご相談等皆様にお手間をお掛けすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。　　加藤　浩晃（ForesTo Class）

【若者の森づくり】地球環境部

僕はいつも決まった時間に起き、決まった時間に家を出ます。そして１日をまるで作業のように終了させていきます。僕は自ら進んで何かを手伝ったりしたことなどはほとんどありませんでした。責任が生じてしまうからです。そんな僕のつまらない半面、とても安全な日常を大きく換えたのがこの活動でした。木なんか切ってどうするんだろう、と思っていましたが、何十年もかけて育った木を切るというのはとても勇気のいることでした。僕が初参加の人たちに混じってなんとなく参加していました。しかし、ついに僕が木を切る番がきました。木は一種の命なので一度切ってしまったらすぐに修復し、やり直すのは不可能です。倒す方向やどれくらい切るのかなど一つ一つの行動に責任が付随してきました。責任、最もやりたくない仕事でしたが慎重に受け口、追い口を入れていきました。そしてその瞬間がやってきました。ミシミシと大きな音をたてドンッと倒れました。僕はただただ自然に圧倒されていました。僕は行動を抑制する責任から解放されたような気がしました。今まで日常生活のなかで全てが分かりきっていると思っていた僕が緑のダムという組織に参加することであたらに見えてくるものもありました。誰かのために、何かできるというのは人生において重要なスキルだということを学びました。

東京学芸大学附属小金井中学校２年生男子

【若者の森づくり】Forest Nova

Forest Nova☆には今年も新入生が入ってくれました。活動に参加した感想を書いてくれた新入生がいたので、紹介させていただきます。

大学生になってから、ふと自分の高校時代を振り返ってみた。一体自分は何をしてきたのだろうと。何も浮かばなかった。何もしていなかったのだから当たり前だ。その空虚な今までの自分を変えるためには果たして何ができるだろうか考えてみた。出した答えの一つは地域のイベントに参加することだ。大学でそれをしているのはこの団体しかなかった。そうForest Nova☆だ。活動に参加してみて想像以上の体験をしたように思う。Forest Nova☆、緑のダムのような団体の活動が発展し、今後も続いていくことを願うばかりだ。活動に参加させていただくことになり、感謝しています。　　佐藤　伸昭（Forest Nova）

【事務局より】

国土緑化推進機構　緑の募金助成

今年度７月から来年度６月までの期間で同助成をいただくことになりました。活動内容は第１日曜日に行っている知足の森です。中高生の活動をご支援いただきます。１年間よろしくお願いいたします。

メーリングリストの更新を行っています

これまで会の活動にご参加、ご支援いただいた方への情報提供や共有のために使用してきましたメーリングリスト

kitasagami@ml.midorinodam.jp

ですが総会を区切りに正会員の方を対象としたものに仕様変更いたします。正会員の方でメールアドレスの確認をさせていただき場合がありますがご協力ください。

夏の本会のイベントを写真でご紹介します

７月末に地球環境部小菅村合宿に１５名が参加しました。また、８月はじめには小原地区での体験学校には本会スタッフも含め約２０名が参加、日帰りではできない様々な活動を行いました。写真でご紹介します。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。